



駐日大使は語る①

駐日アラブ首長国連邦(UAE)大使

シハブ・アハマド・アル・ファヒーム

Shihab Ahmed Alfaheem
アブダビ国営石油会社、アブダビ・イスラーム銀行
などで勤務した後、2013年にUAE外務省に入省。
2020年12月より現職。

エネルギーから宇宙まで 拡大続ける日・UAE関係

【インタビュー・構成】小南有紀

——大使はアブダビ国営石油会社(ADNOC)におられた時にも日本に滞在されたご経験をお持ちです。

大使 日本での外交官としての生活は、私が二〇〇三〇四年に語学留学したときは異なるものです。よく知っている国に戻ってきた感覚ですが、今はUAEの人々と日

本をつなげるために働いています。

一方、かつて日本に滞在した時と同じく、日本の能率性と日本人々の礼儀正しさに、感銘を受けています。そして、私の海外で初のポストとして、駐日UAE大使に任命されたことを嬉しく思っています。

○四年に私が日本を去ってから、日本では数多くの新たなプロジェクトが始動しましたが、日本の精神は変わっていません。自国の文化を守りながら発展するという日本のやり方が、私は好きです。

——日本でお気に入りの場所はありますか。

大使 これはとても難しい質問ですね。日本を旅するたびに、好きな場所が増えるからです。もし東京からドライブするなら日光ですが、もっと遠くに出かけるなら宮崎県や北海道が特に好きですね。

石油だけではない日・UAE関係

——二〇二二年は日・UAE外交関係樹立五〇周年にあたります。この間の両国関係について、どのように見られますか。

大使 両国の関係はさらに昔にさかのぼれますが、ひとまず過去五〇年間を振り返りましょう。両国関係は石油・エネルギー分野を中心にスタートし、その後、自動車や機械の分野に焦点が移りました。今日では、両国関係はさまざまな領域に広がっています。例えば、新型コロナウイルスのパンデミックにもかかわらず、両国は宇宙分野で協力を進めました。UAEは鹿児島県種子島から日本のH2Aロ

ケットを用いて、二二年二月、ムスリム・アラブ国家として初めて探査機を火星に到達させました。

日・UAE間の協力はまだまだ始まったばかりで、今後も新たな分野で協力していけると思います。両国は、二〇五〇年までに炭素排出ネットゼロを達成することを宣言しており、この目標に向けて水素・アンモニアの分野で協力しています。

私は常々、特に両国の国民同士の間で、もつとできることがあると感じています。

——日本はUAEから多くの石油を輸入しています。

大使 私たちは、石油が限りある資源であり、いつの日か持続可能な解決策に向けて移行するであろうことを理解しています。UAEは石油資源が尽きるその日に備えています。つまり、日本とともに持続可能性に取り組み、両国のためになる解決策を示すために協力することになるでしょう。

日本は一九六七年からUAEでの石油探掘権を持つており、二〇二一年、日本企業が探掘権を持つ油田に膨大な埋蔵量があることが公表されました。日・UAE間の緊密な関係と知識の共有によって、UAEは日本の安定的なエネルギー供給国となり、持続可能な未来に向けたパートナー

となっております。

——気候変動に關しての取り組みはいかがでしょう。

大使 両国は二〇五〇年までの炭素排出ネットゼロの達成を約束しています。中東地域で、UAEは最初にパリ協定に批准するとともに、五〇年までのネットゼロを約束した最初の国です。〇七年以来、私たちは日本と持続可能性の推進で緊密に連携しており、太陽光発電所から水素・アンモニアを用いた発電に至るまで、多くのプロジェクトを始動させました。日本が有するイノベーションに關する知識と関心、そしてよりクリーンな未来に向けたUAEのコミットメントによって、両国は気候変動に立ち向かうとても重要な協力關係にあります。UAEはすでに気候変動対策に取り組んでおり、二三年には国連気候変動枠組条約第二八回締約国会議(COP28)を主催する予定です。

——二〇二〇年八月に、UAEはイスラエルとの国交正常化に踏み切りましたが、その狙いは何ですか。

大使 友を持つことは、敵をつくることより大切です。イスラエルとの合意によって、UAEは新たな友好国を増やすことができ、両国の政府間および国民間の意思疎通の新たなチャンネルを作ることができました。これまでイスラエルとの間に公式的な意思疎通ルートがなかったので、同

国との国交正常化は難しい問題を話し合うのに寄与していません。

二二年九月に、アブラハム合意(UAE・イスラエルの国交正常化を合意)一周年を迎えました。この合意の成果の一つは、イスラエルによるパレスチナ自治区の併合がストップしたことです。現在、UAEは中東情勢で緊密に協力するより多くの地域的パートナーを有しています。

コロナ下で、さらに緊密な連携が必要

——およそ一年の延期を経て、二〇二一年に東京オリンピック・パラリンピック大会とドバイ万博が開催されました。

大使 東京オリンピック・パラリンピックの開催は、「日常への回帰」というとても強いメッセージを世界に示しました。また、同大会の開催は、参加に向けて五年間にわたリトレーニングを積んできたアスリートを支えました。ドバイ万博は、東京オリンピック・パラリンピックのメッセージを引き継ぎ、「パンデミックに打ち勝ち、日常へ回帰する」という希望のメッセージを発信しています。UAEの最初の万博参加は、一九七〇年の大阪万博でした。そして今日、私たちはドバイ万博に全世界を迎えています。さらに、万



3月末まで開催のドバイ万博に出展する日本館。約190の国と地域が参加する一大イベントとなった（新華社／アフロ）

博初参加から五五年後の二〇二五年に、再び大阪万博に参加できることをとても嬉しく思っています。

——UAEには二つの日本人学校（ドバイ日本人学校とアブダビ日本人学校）があります。

大使 二〇二一年五月にアブダビ日本人学校を訪れたとき——特にUAEの生徒が日本人生徒と肩を並べて勉強

し、みな流暢な日本語を話しているのを見たとき、とても感銘を受けました。両国の懸け橋となる世代を育てることによって、世界

に重要なメッセージを発信しています。

パンデミックは日本への移動をとて困難にしており、日本の大学や学校への入学が認められているにもかかわらず、日本への入国に苦労しているUAEの学生たちがいます。困難な状況ではありますが、私は感染拡大を抑えるための日本政府の立場を理解しています。

日本政府がすべての予防措置を考慮に入れながら、学生たちの入国を認めることはあり得ると、私は大使館とともに考えています。UAEでは、感染拡大を抑える措置をとりながら、国境がオープンに保たれています。UAEは感染拡大を抑えるためにテクノロジーの活用と大規模な検査を実施しており、パンデミックの現在において最も安全な場所であると考えられています。とりわけ、これまでよりも早く感染が広がるオミクロン株に対して、私たちは油断してはなりません。

私は、今より多くのUAEの学生と日本人生徒が、互いの国で学ぶようになってほしいと思っています。この文化的交流は両国の懸け橋を築くことと、互いの国を理解する専門家の育成のために重要です。さらに、学生たちが日本とUAEの相互で暮らすことに興味を持てるような短期留学プログラムが、今よりも増えることを願っています。●